

第43回大阪大学野田村サテライトセミナー(第1回村民企画)

日本舞踊をもっと身近に

2016年9月11日、野田村コミュニティルームにて「第43回大阪大学野田村サテライトセミナー」を開催しました。今回のセミナーは、初の村民企画セミナーでもありました。これは、野田村村民の方からの提案によるテーマ・講師をお願いして開催するセミナーで、今年度からはじめての試みです。記念すべき第1回は、日本舞踊の川代一枝さん(久慈市在住)にお越し頂きました。

まず、結婚式でも舞われることのある「高砂」について、歌詞カード、地図を用いて、歌の意味、踊りとの関係を教えてくださいました。阿蘇の神官が今の兵庫県高砂市あたりに立ち寄り、月夜の中に淡路島の島影を認めつつ、西宮市鳴尾浜の沖を通して、大阪住之江に至る船旅の情景を歌ったものであること、その旅は、高砂と住之江に住む男女の仲睦まじい様を表していることなどを説明され、月夜の表現、波の表現など踊りとの関係を教えてくださいました。中でも、「自分が見ている風景(例えば、月)を、自分が舞として表現するのです」というお話は、表現としての面白さを感じるところでした。続いて、実際に「高砂」を舞って頂きましたが、言葉と身体表現の意味を学んだ上でしたから、とても味わい深い舞いであることがわかり、参加者の皆さまに好評でした。

次に、日本舞踊の基本の動きを説明していただきましたが、実際に動いた方がよいということで、机を片付け、立ったり、椅子に座ったりして「大ちゃん数え歌」を全員で練習していきました。とても丁寧にご指導いただきましたが、すぐにできるわけでもなく、「省略形」で踊ることになりました。会場の皆さんからは笑みが絶えることなく、和やかな雰囲気が進みました。

会場からは、流派について、膝の動きについて、また、遠隔教育システムで結んでくださった大阪大学からは、舞の時間について、などなど質疑応答も多様に行われ、あっという間に感じてしまうほど充実したセミナーでした。今回も人間科学研究科の前迫研究室の皆さまに多大なご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

次回(10月11日)は、この夏、コミュニティ・ラーニングでお世話になった大学院生から野田村の皆さんへの報告を軸に、人間科学研究科が継続開催してきましたコンポジウム(コンサートとシンポジウム)を展開する予定です。



